

8.3 生物・生態系

8.3.1 調査事項

調査事項は、表 8.3-1 に示すとおりである。

表8.3-1 調査事項

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区みどりの条例における緑化基準及び東京都再開発等促進区を定める地区計画の運用基準に示された緑化基準を満たす緑地を確保する計画としている。 ・既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する計画としている。 ・伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討する。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採することとし、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行うこととする。 ・オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。 ・計画地外周部については、既存高木を最大限保存するよう配慮し、必要に応じて補植を行いバッファー機能の向上を図るとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する。 ・マヤラン等の注目される植物については、工事実施前に既往確認地点及びその周辺の生育状況について追認調査を実施し、改変区域内での生育が確認された場合には可能な限り個体移植を実施する。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。 ・移植後は、樹木養生を実施するほか、適宜散水や施肥を実施する計画としている。 ・移植の実施状況については、フォローアップで確認する。

8.3.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺地域とした。

8.3.3 調査手法

調査手法は、表 8.3-2 に示すとおりである。

表8.3-2 調査手法

調査時点		工事の施行中とした。
調査期間	ミティゲーションの実施状況	工事の施行中の適宜とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

8.3.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.3-3(1)及び(2)に示すとおりである。なお、生物・生態系に関する問合せはなかった。

表8.3-3(1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 江東区みどりの条例における緑化基準及び東京都再開発等促進区を定める地区計画の運用基準に示された緑化基準を満たす緑地を確保する計画としている。 	<p>緑地の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する計画としている。 	<p>既存の大径木・樹林地に配慮し、樹木の約2,000本の保存に努めるほか、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木約80本を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。(写真8.3-1)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討する。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が高くないものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採することとし、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行うこととする。 	<p>伐採エリア内の大径木について、平成28年9月に樹木調査を行い、場内にて移植保存する樹木を選定した。その他は、マテバシイやトウネズミモチ等の生育不良木、枯損木、外来種を中心に約1,060本を伐採した。移植場所は、図8.2-1 (p.50参照)に示すとおりであり、計画地南東の敷地境界及び芝生広場等とした。主な移植樹種は、ケヤキ、クスノキ、クロマツ、タギョウショウ、コナラ、ヒヨクヒバ、アキニレ、サクラ、サザンカ、マテバシイ、ヤブツバキ、ヤマモモ等であり、大径木は、ケヤキ、クスノキ、コナラ等約40本の移植を行った(写真8.3-2及び3)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。 	<p>芝生広場の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 計画地外周部については、既存高木を最大限保存するよう配慮し、必要に応じて補植を行いバッファー機能の向上を図るとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する。 	<p>計画地外周部については、既存の大径木・樹林地に配慮し、樹木の保存に努めた。有明コロシアムの外周の植栽帯には、サツキツツジ、ヒラドツツジ、クルメツツジ、オオムラサキツツジ、計約5,200株、計画地南東側には、ドウダンツツジ及びクルメツツジ、計約700株を植栽した他、主に計画地南東側の歩道状空地周辺にはコブシ、トベラ、ウバメガシ等の高中木を約60本補植し、緑量のある植栽とした。また、北側については歩道上空地と干渉しない高木群は最大限保存し、大会後整備する東側歩道上空地の交差点付近の角地には既存高木に加えて移植高木による緑量の確保に努め、周辺の緑とのネットワーク形成を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> マヤラン等の注目される植物については、工事実施前に既往確認地点及びその周辺の生育状況について追認調査を実施し、改変区域内での生育が確認された場合には可能な限り個体移植を実施する。 	<p>平成29年8月28日に追認調査を実施し、ショーコート整備予定範囲にクゲヌマラン及びササバギンラン、クラブハウス・インドアコート整備範囲にマヤランの個体が確認されたため、計画地西側の植栽帯に平成29年11月にクゲヌマラン10株、ササバギンラン1株、マヤラン17株の移植を行った(写真8.3-4~6)。移植は、資料編に示すとおり、ボイド管及び移植ごてによって掘り取りを行った。移植先は、各種の生育環境を考慮して選定した。共生菌の量を確保することを狙いとして、同種を1箇所にまとめて移植した。その後、移植先での生育を全て確認した(写真8.3-7及び8)。</p>

表8.3-3(2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。 	<p>植栽基盤の整備については、移植樹木の根鉢が収まり、かつ、強風時にも倒れない根張りを確保できる基盤厚を確保して整備した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 移植後は、樹木養生を実施するほか、適宜散水や施肥を実施する計画としている。 	<p>移植樹木は、乾燥防止対策等のため幹を養生した。移植地には施肥を実施し、移植後は十分な散水を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 移植の実施状況については、フォローアップで確認する。 	<p>移植は、根をできる限り切断しないよう掘り取り、根巻きを行った。トラックで運搬し、基盤整備した移植先へ植付を行った。</p>



写真 8.3-1 芝生広場南側移植状況（クスノキ）



写真 8.3-2 芝生広場移植樹木（クスノキ）



写真 8.3-3 計画地北側移植樹木（ケヤキ）



写真 8.3-4 クゲヌマラン・ササバギンラン
移植完了（2017年12月撮影）



写真 8.3-5 クゲヌマラン移植完了
（2017年12月撮影）



写真 8.3-6 マヤラン移植完了
（2017年12月撮影）



写真 8.3-7 クゲヌマラン生育状況
（2020年6月撮影）



写真 8.3-8 ササバギンラン生育状況
（2020年6月撮影）

注)写真 8.3-4～6 のオレンジリボン箇所が移植個体位置である。